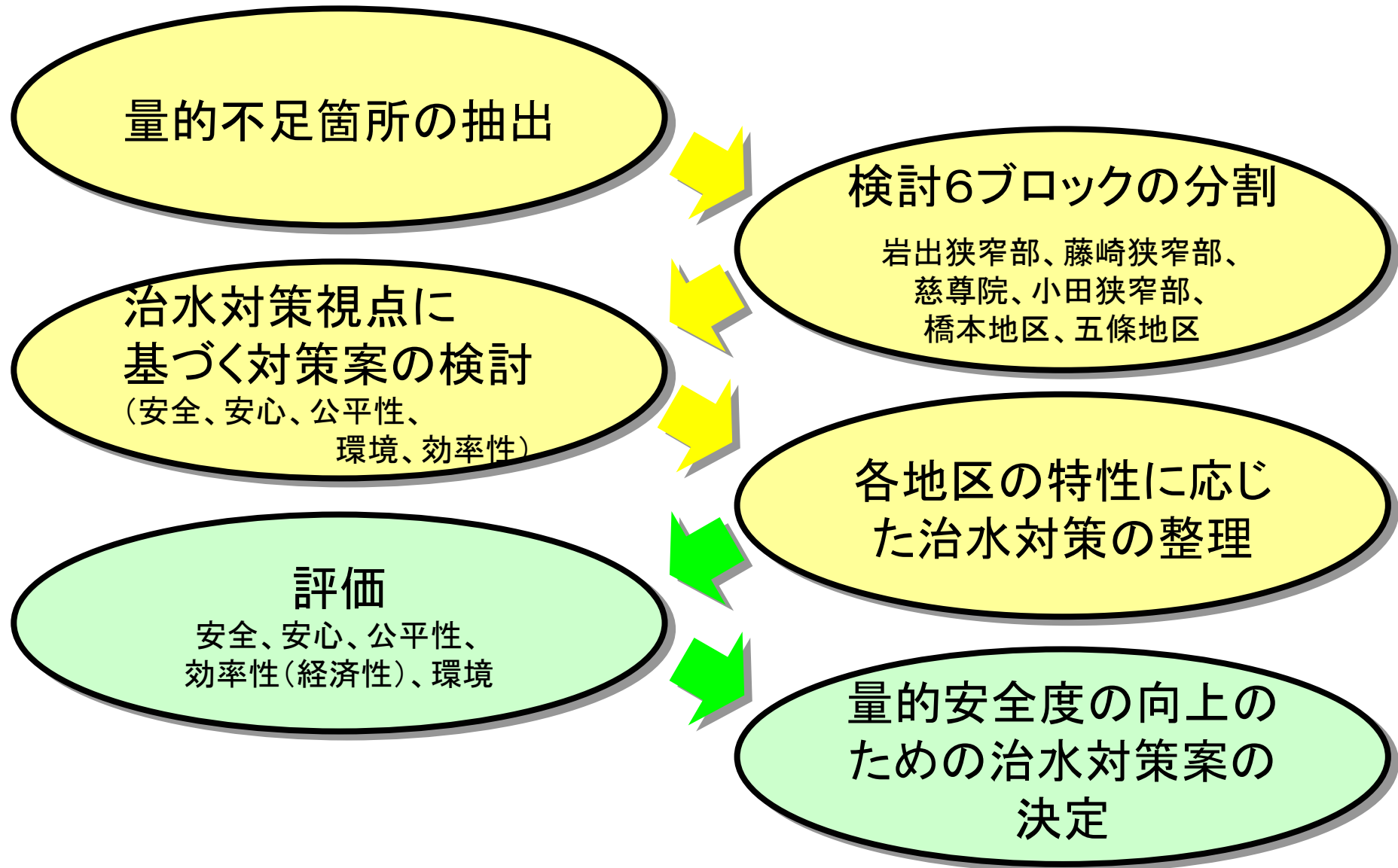


6. 量的安全度の向上

治水対策整備メニューの検討フロー



河川整備計画検討における前提条件

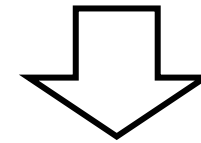
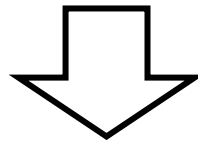
大滝ダム

河道

(現況の前提条件)

1,200m³/s
一定量放流

現況河道



(30年後の目標)

2,500m³/s
一定量放流

S34.9型洪水の
流下河道断面を目標

大滝ダムの放流方式について

- ・現況の大滝ダム地点の流量が $1200\text{m}^3/\text{s}$ 程度を超えるとダム下流(県管理区間)で家屋被害が発生する。
- ・ $1200\text{m}^3/\text{s}$ で洪水調節した場合、中小洪水に対しては有効に効果を発揮するが、S34.9型等の洪水に対しては大きな効果を発揮しない。
- ・概ね30年後の下流の整備状況に合わせ、大滝ダムの治水容量を最大限活用した $2500\text{m}^3/\text{s}$ 一定量の放流方式を整備計画の目標とする。

大滝ダムによる氾濫現象の変化(1)

【大滝ダム1200m³/s一定(現況)】

【大滝ダム2500m³/s一定(現況)】



大滝ダムによる氾濫現象の変化(2)

【大滝ダム1200m³/s一定(現況)】

【大滝ダム2500m³/s一定(現況)】



検討6ブロックの治水メニューの考え方

計画目標規模を安全に流下させる整備メニュー



築堤、掘削、最小限の井堰の改築
による氾濫解消

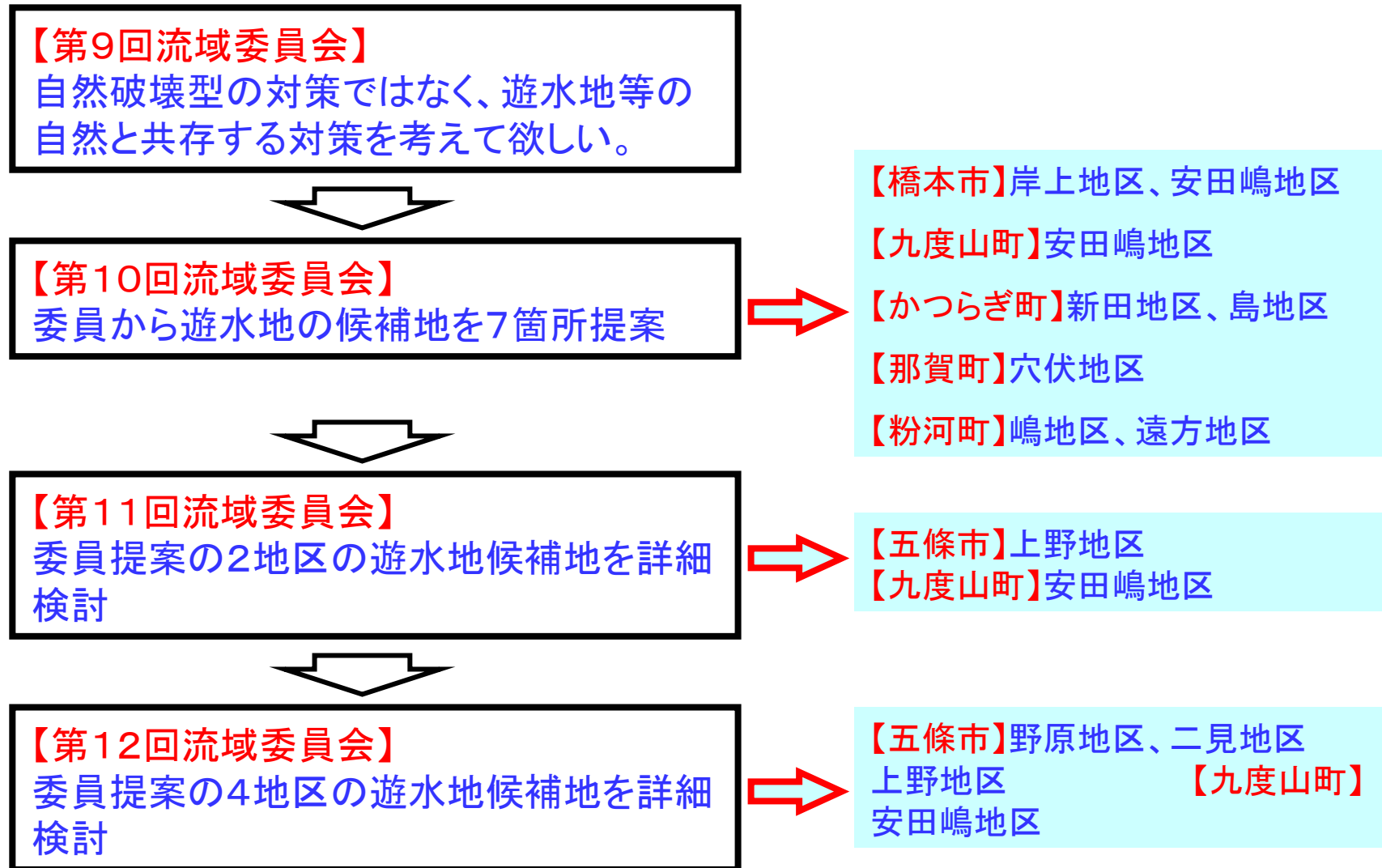


- ・環境への影響を
考慮した掘削の代替案
- ・計画を上回る洪水の対応策

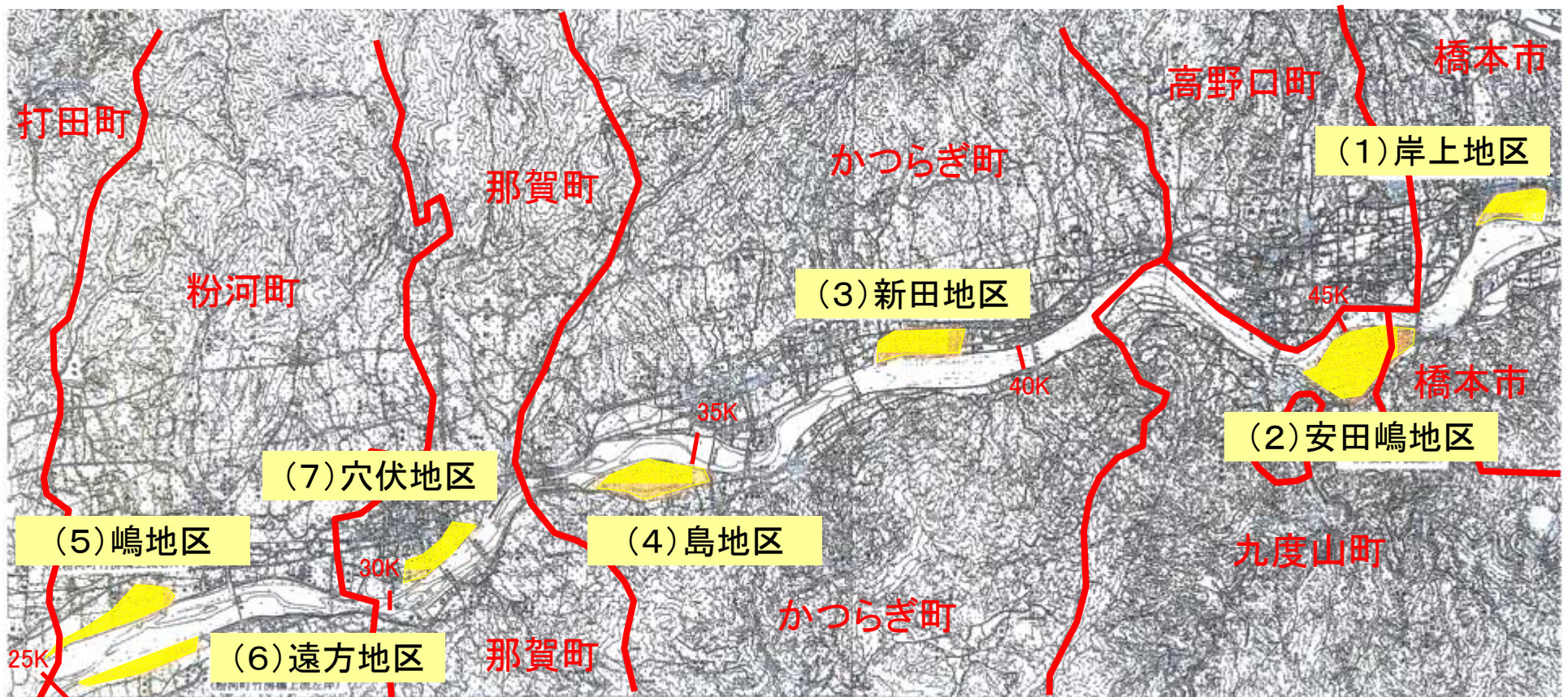


- ・委員からの提案による遊水地の可能性
上野地区
安田嶋地区
二見地区

委員から要望のあった遊水地検討の流れ



委員会で委員から 提案された遊水地候補地



※第10回委員会で提案

具体的な河川整備メニューの考え方(1)

昭和34年9月洪水における氾濫解消を目標として、対策案を検討

(氾濫解消)

(壊滅的な被害の回避)

岩出狭窄部

【案1】
岩出井堰部分改築
掘削

【案2】
岩出井堰全面改築

計画を上回る洪水が発生した場合、人口・資産の集中する下流域へ被害拡大

全面改築により計画を上回る洪水にも対応。かつ、将来手戻りが生じない。

【環境への配慮】
堰を全面改築することで改築後の河床変動を期待

(氾濫解消)

(環境への配慮)

藤崎狭窄部

【案1】
掘削
築堤(麻生津)

【案2】
藤崎井堰全面改築
築堤(麻生津)
堤防強化対策

景勝地で鳥類等の良好な生育地となっている中州の掘削が必要

中州の掘削を回避する代替として、堤防強化により破堤しにくい堤防整備

具体的な河川整備メニューの考え方(2)

昭和34年9月洪水における氾濫解消を目標として、対策案を検討

小田狭窄部

(氾濫解消)

【案1】
小田井堰部分改築
築堤(安田嶋)
掘削

固定堰の存在により下流断面を確保できない。堰の左岸が固定部である。

【環境への配慮】
堰を全面改築することで改築後の河床変動を期待

(環境への配慮)

【案2】
小田井堰部分改築
築堤(安田嶋)
堤防強化対策

掘削を回避する代替として堤防強化により破堤しにくい堤防整備。

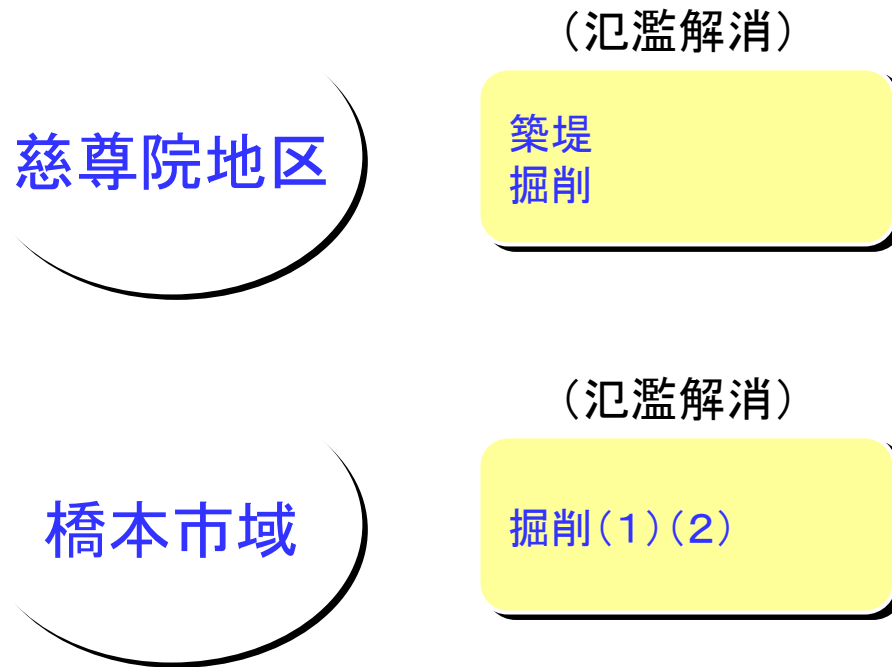
(遊水考慮)

【委員提案】
遊水区域(安田嶋)

下流への流量低減

具体的な河川整備メニューの考え方(3)

昭和34年9月洪水における氾濫解消を目標として、対策案を検討



具体的な河川整備メニューの考え方(4)

昭和34年9月洪水における氾濫解消を目標として、対策案を検討

